

---

# 黒、白。【短編編?】

antinomy

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒、白。【短編編？】

### 【Nコード】

N0930S

### 【作者名】

antimony

### 【あらすじ】

アンチノミー  
矛盾は生死を操る神のような存在であった。彼は人を改心させるために

**（前書き）**

まさかのシリーズ化。

勉強もダメ。

運動もダメ。

女子にも男子にも先生にも家族にも嫌われてる。

絶望的になっていた。

そんなとき。

僕は眠りから覚めた。

そこはいつもの地味な部屋だと思ったが、何かが違う。

真っ白だった。

ああ、死んだのか。そう思った。

足も軽いし。

そして、光の方へ足を進めた。

『初めまして。』

「・・・・・・・・・・」

真っ白い人がいた。

『これから、貴方に白の世界をお見せいたしましょう』

「白の世界？」

『さあ、ご覧あれ』

彼は僕の話の聞かずすめた。

そして、僕一人を残した。

しばらく歩いていて行き着いた世界は白い世界。

平和という名前がふさわしい世界だった。  
そう、誰も触れていない真っ白な紙のような。

そこに、いじめが。

悲惨だな。

“白い紙”に“黒いペンで書きなぐった”感じ。

今まで白かったその紙は、黒い一線という、いじめによって  
平和白さを失った。

『どうですか？』

「どう？」

『まだ理解不能のようですね。クスクス。』

それではこちらはいかがですか？』

人がくるりとまわると今度は黒くなった。

今度は真っ黒な世界だった。

平和とか平等とか共生とか知らない世界。

そんな世界に。

そう、まるで。

真っ暗な世界に、光が差したような。

「平和になったんだね？」

『いえ？そんな訳ないでしょう』

「どうして!？」

『彼らは平和を知らない。扱いを知らないんでしょう?..』

「じゃあ、さつきと違うじゃん!」

『これでいいんですよ。これで』

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

そして今度は灰色だった。

『さて、あなたでもこれは分かりますよね』

「これは、僕の到世界だよ」

『そうです、よくできますね。平和と戦争が共生している』

『今、灰色の世界で戦争している国は昔黒を犯したから。』

人は、灰色の一部に白い点をつけて見せた。

『それが無くなることはないです』

上に黒をかぶせる。

『それぞれ、黒と白が調和する』

「美術で習ったよ。色を作ってて白は作れないって」

『ふふ。そうですね。』

ですから、白にならず、黒にせず、灰色で収める』

「だけど、違うよ」

『？』

「白になれる訳がない」

『つまらないですね。折角、改心する時をあげたのに』

「？」

『この前の高校生の方がまったくもって頭が良かったです』

人は、僕の額にデコピンする体制になって、その親指を離し、

僕に中指をぶつけた。

『失望しました。』

君には、  
黒い世界がお似合いなようだ

はっ、と気が付くと僕は現実に戻っていた。

「ああ、大丈夫？ごめんねえ、いじめに気が付けば自殺未遂なんて・  
・・！」

ああ、そうか。

僕は昨日自殺をしたんだ。

じゃあ、一命を取り留めたっていうのかな。

「う、あああ！？」

僕は衝動的にテーブルにあったハサミに手を向けた。

「あああああああ！うう」

それを首に向けた。

家族に混じって黒いあの時の、人が立ってるのが見え、  
僕の人生は切れた。  
きおく

「私の名前は矛盾。  
アンチノミー

あなたがたを改心するために生まれた生死を操るものだ」

以後とも君たちも

この世界へ導きたいと思ってるよ



## 試し

「はいです」

上に黒をかぶせる。

「それぞれ、黒と白が調和する」

「美術で習ったよ。色を作って白は作れないって」

「ふふ。そうですね。」

ですから、白にならず、黒にせず、灰色で収める」

「だけど、違うよ」

「？」

「白になれる訳がない」

「つまらないですね。折角、改心する時をあげたのに」

「？」

「この前の高校生の方がまったくもって頭が良かったです」

人は、僕の額にデコピンする体制になって、その親指を離し、僕に中指をぶつけた。

「失望しました。」

君には、

黒い世界がお似合いなようだ

はっ、と気が付くと僕は現実に戻っていた。

「ああ、大丈夫？ごめんねえ、いじめに気が付けば自殺未遂なんて・  
・・！」

ああ、そうか。

僕は昨日自殺をしたんだ。

じゃあ、一命を取り留めたっていうのかな。

「う、あああ！？」

僕は衝動的にテーブルにあったハサミに手を向けた。

「ああああああ！うう」

それを首に向けた。

家族に混じって黒いあの時の、人が立ってるのが見え、

僕の人生

きおく

は切れた。

『私の名前は矛盾

アンチノミー

。

あなたがたを改心するために生まれた生死を操るものだ』

以後とも君たちも

この世界へ導きたいと思ってるよ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0930s/>

---

黒、白。【短編編?】

2011年10月3日11時21分発行